改憲・戦争阻止！大行進 全国ニュース

4月号
2026
No.16

【連絡先】千葉県千葉市中央区要町2-8 動労千葉気付／東京都台東区元浅草2-4-10 五宝堂ビル5F　毎月1回 15日発行
TEL.080-6053-1751（本山） kaikensoshi_daikoushin@yahoo.co.jp　頒価100円

イラン侵略戦争阻止！ 日米安保粉砕・日帝打倒！

「5.15沖縄闘争」に大結集を

改憲・戦争阻止！大行進 沖縄　松本未土

海兵隊のイラン派兵を許すな

トランプ大統領は、帝国主義としての延命をかけて中国侵略戦争―世界戦争を開始しています。その一環としてベネズエラ侵略戦争が強行され、現在イラン侵略戦争がイラン人民を虐殺しながら進行しています。「復帰」54年の本年5・15沖縄現地闘争は、在沖海兵隊のイラン派兵、日帝の参戦という戦時下で闘われます。

米帝による中国侵略戦争―世界戦争のために絶対不可欠なのが「第1列島線」上にある日帝の参戦であり、日米安保同盟とその最大実態である在沖米軍基地の存在です。そのことをわかっている日帝・高市は、沖縄の島々への自衛隊基地拡大や長射程ミサイルの配備などを進め、「台湾有事は日本の存立危機」発言に明確なように、自国の戦争として中国侵略戦争を主体的に行おうとしています。

かたや中国スターリン主義・習近平は、米日帝国主義に対して帝国主義打倒で闘うのではなく、軍事的に対抗して戦争を呼び込んでいます。絶対に許せません。

中国侵略戦争阻止の闘い本番

米帝による中国侵略戦争は、沖縄を戦場にすることを大前提にして開始されています。私たちは二度と戦争の犠牲者になることも、加害者になることも絶対に拒否するし、阻止します。

5/16土 国際通りデモ
17日 嘉手納デモ・勝連分屯地抗議
18月 辺野古闘争・那覇駐屯地抗議

在沖海兵隊がイラン侵略戦争に出撃しています。沖縄では毎日のように軍事演習が繰り返されています。米軍による事件・事故が続発し、戦時下の沖縄でいつまた女性暴行や重大事件・事故が引き起こされるかもわかりません。こんな基地の島＝戦争の島の現状を、1日たりとも認めるわけにはいきません。

米帝の世界支配を維持するために、中国侵略戦争のために基地と軍隊が沖縄を犠牲にしながら存在している。日帝が沖縄を犠牲にしながら再びの中国・アジア侵略戦争を行おうとしている。これこそが日米安保体制であり、1972年のペテン的沖縄「返還」＝5・15体制です。この続く現実を大衆的な実力闘争で覆すことが必要です。それは戦争に突き進むトランプと高市を、闘う中国・アジア・中東人民と連帯し、沖縄―本土を貫く安保・沖縄闘争の爆発で打倒しようということです。

辺野古新基地阻止へ

辺野古の平和学習船転覆・死亡事故に乗じて、政府・右翼連中が基地反対闘争への非難を叫んでいます。だが、基地建設を強行し、日常的に事件・事故、戦争・虐殺をやり続けているのが、帝国主義ではないか。いま必要なのは、この帝国主義を打倒することです。

「革命の火薬庫」＝沖縄から戦争を止め、社会を変えよう！ 私たち改憲・戦争阻止！大行進沖縄は、「中国侵略戦争阻止、全基地撤去、安保粉砕・日帝打倒」を真正面から掲げて3日間の5・15沖縄現地闘争を闘います。辺野古新基地建設阻止に断固決起します。

全国・沖縄の仲間、なかでも青年・学生・女性のみなさん。帝国主義のための侵略戦争の、この腐りきった現実を変革しよう。私たちにはその力があります。沖縄現地闘争をともに闘い、そして勝利しましょう！

4・29「昭和100年式典」粉砕闘争へ

中国侵略戦争阻止！天皇制粉砕！日帝打倒の大デモを

イラン反戦闘争の爆発を

アメリカ帝国主義（米帝）のイラン侵略戦争が、中国侵略戦争－世界戦争の決定的エスカレーションとして激化・拡大している。トランプは「イランを石器時代に戻す」「文明は滅びる」「イランの石油を奪う」と言い放ち、病院、学校、大学、住宅、橋、石油化学施設への残虐極まる空爆と虐殺をくり返している。「停戦」合意などと言いながら、実際にはすさまじい大規模攻撃を振りかざし、イスラエル軍がレバノン侵攻をエスカレートさせている。

この戦争の元凶は帝国主義だ。そして帝国主義の侵略戦争に対するイラン人民の不屈の抵抗と反撃は当然の権利だ。帝国主義のもとでの「平和」「外交的解決」「国際法違反」、あるいは「攻撃の応酬」「暴力の連鎖」などの非難は、帝国主義の擁護と免罪でしかない。帝国主義の支配体制を打倒することだけが戦争を阻止する道だ。

何よりも在日米軍基地が最大の出撃拠点になっている。そして高市は一貫して米帝トランプを支持し、中東・ホルムズ海峡への自衛隊派兵＝参戦も狙っている。日本における反戦闘争、日本帝国主義（日帝）・高市打倒の反戦闘争が決定的だ。イラン反戦、日帝の参戦阻止、高市打倒の巨万の反戦闘争に立ち上がろう。

3.20渋谷反戦デモ

高市打倒の怒りとうねり

国会を取り巻く労働者人民、とりわけ青年層の高市と改憲・戦争への怒りがわき上り、巨大なうねりが始まっている（4月8日の国会行動は3万人の大結集！）。それは、戦争を何がなんでも阻止する、そのために改憲・戦争の高市を引きずりおろす、そして自らの行動によってこの社会を根底的に変革するという思いであり、怒りである。始まったうねりを、戦争の元凶＝帝国主義打倒へととことん解き放ち発展させよう。「改憲・戦争阻止！大行進」は、これまでの実力反戦デモ、戦争国会粉砕・高市打倒を貫いてきた闘い、帝国主義打倒の反戦闘争を必死に闘ってきた地平に立ち、さらに転換的飛躍をかけて全力で闘う。4・29「昭和100年式典」粉砕闘争から5月沖縄闘争を闘い、高市打倒の6・14全国闘争（芝公園）への大結集をつくり出そう。

侵略美化の戦争式典粉砕

4月29日の「昭和100年記念式典」（政府主催）は、日帝の侵略戦争・植民地支配の歴史を隠蔽・美化し、全面的に居直り、天皇制を賛美して、いま再び公然たる侵略国家として登場し、米帝とともに中国への侵略戦争に突進する国家態勢をつくるものだ。闘う中国・アジア人民との連帯にかけて、戦争式典を粉砕し、日帝・高市を打倒しよう。

「昭和100年」とは同時に、沖縄戦～日米安保と沖縄「売り渡し」（1952年4月28日）～72年「返還」での基地の固定化・強化と、沖縄を踏みにじり続けた歴史でもある。中国侵略戦争阻止、全基地撤去・日米安保粉砕の安保・沖縄闘争の爆発へ。4・29大デモを闘おう。

天皇の福島訪問を徹底弾劾（4/6）

日帝・高市の原発再稼働、福島圧殺攻撃と真っ向対決してかちとった原発事故15年の3・11反原発福島行動（420人）に続き、4月6日、天皇福島訪問弾劾闘争が闘われた。

昨年の戦後80年を期した沖縄・広島・長崎に続く福島訪問は、天皇制暴力によって反戦反核反原発の怒りと闘いを圧殺し、再び天皇を前面に押し出して戦争突進を図るものだった。だが、それを打ち破り、国家権力の規制・弾圧と対決して怒りの声をたたきつけた。

天皇こそ、中国・アジア侵略戦争、2000万人大虐殺を遂行した張本人であり、自らの支配の維持（日帝支配の維持・延命）のために、沖縄戦もヒロシマ・ナガサキも引き起こした最大の責任者だ。しかも一貫して戦争責任を開き直り続けている。天皇制は日帝支配の支柱であり、戦争と差別の元凶だ。中国侵略戦争－世界戦争阻止の反戦闘争で、天皇制を粉砕し、日帝・高市を打倒しよう。

高市・トランプ中国侵略戦争会談 弾劾！

米帝トランプ政権は、ベネズエラ侵略戦争、イラン侵略戦争をもって、中国侵略戦争－世界戦争戦略（NSS－NDS）を発動した。3・19日米首脳会談は、米帝の中国侵略戦争－世界戦争戦略を促進する帝国主義戦争会談として強行された。

会談は冒頭で高市が「世界の平和と繁栄をもたらせるのはドナルドだけ」と振る舞い、トランプとともに戦争放火者同士の緊密な同盟の立場を明らかにした。

第一に、日帝・高市は「イランによる核兵器開発」「ホルムズ海峡の閉鎖」「周辺地域に対する攻撃といったイランの行動」を非難し、「米国を含む国際社会と共に事態の早期鎮静化」「中東地域の平和と安定にむけて」「日米間で緊密に意思疎通」（以上外務省）と、米帝トランプのイラン侵略戦争への強力な支持を表明した（会談直前には日本主導のイラン非難＝「ホルムズ海峡に関する6カ国首脳共同声明」を発表）。

さらにイラン侵略戦争へ自衛隊派兵を積極的に行う立場を表明した（米国連大使ウォルツが3月22日米CBSで「日本の総理が海上自衛隊による支援を約束」と発言）。

第二に、米帝トランプは「強力な拒否防衛態勢の実現」「先進的な能力を日本に配備する」「防衛力の迅速な強化、防衛予算の増額」「駐留米軍との連携継続に向けた日本の決意を歓迎」「中距離空対空ミサイル（AMRAAM）の共同生産」「SM-3ブロックIIAの生産」を「4倍まで拡大」（以上米政府）と発表した。

対する日本は「日米同盟の抑止力・対処力」「ミサイルの共同開発・共同生産」「経済安全保障分野での日米協力」の強化（以上外務省）を抽象的表現で発表しているが、これは高市が唱える安保3文書改定などの大軍拡と改憲、侵略国家化の実践の表明だ。高市は、日帝の延命と絶望的飛躍をかけて中国侵略戦争参戦を強烈に宣言したのだ。

3月日米首脳会談は、イラン侵略戦争下のまさに歴史的な帝国主義戦争会談として行われた。絶対に許してはならない。

帝国主義打倒の反戦闘争に敵対する日本共産党

イラン侵略戦争－世界戦争に反対する人民の闘いが全世界で燃え広がっている。戦後革命、60年－70年安保をはじめ歴史的に闘いを蓄積・継承してきた日本でも、新たな階級的総決起の時代が開始された。高市クーデター＝2・8総選挙は、労働者人民の怒りと危機感を急速に高め、体制内的制動をうちやぶる新たな青年・学生・女性の決起が始まっている。この革命的情勢を、アジア人民への血債をかけた帝国主義打倒の反戦闘争の大爆発に転化していくことが、日本の労働者人民に求められている。

「イラン人民の虐殺ゆるすな」「侵略戦争を止めろ」「トランプを倒せ」「高市を倒せ」「イラン人民と連帯して闘おう」と声をあげ、国会前をはじめ全国各地であふれ出る怒りの決起が始まっている。この怒りを解き放ち、戦争を阻止する闘いに勝利するためには、戦争の元凶は帝国主義であること、帝国主義打倒、トランプ打倒、高市打倒のスローガンを鮮明に打ち立てて闘うことが決定的だ。

だがいま日本共産党（日共）は、イラン侵略戦争阻止、帝国主義打倒の反戦闘争に敵対し、闘いを歪曲・破壊しようとしている。3月13日、日共議長志位は、米帝のイラン侵略戦争を「イランへの無法な攻撃」と規定して帝国主義の侵略戦争であることを真っ向から否定した（他方で「ロシアのウクライナ侵略戦争」と規定）。

日共はイラン侵略戦争を「侵略戦争」とは絶対に規定しない。それはアメリカと日本を帝国主義と規定し、これを打倒する立場ではなく帝国主義と「平和共存」を求めるスターリン主義だからだ。それは帝国主義（資本主義）の下で戦争は不可避であり帝国主義を打倒せずに侵略戦争・世界戦争を止めることはできない、帝国主義戦争を内乱へ。この労働者階級の立場、国際連帯を否定し破壊するためだ。

日共は、反戦闘争の大衆的爆発に恐怖し、その内乱的発展を阻止するために、「（日帝の）自衛戦争」賛成の主張を全力で叫んでいる。「専守防衛の原則を守れ」や「9条こそ日本の防衛」「憲法こそ最高の防衛」は祖国擁護と国益主義の主張であり、帝国主義打倒の反戦闘争とは相容れない。こうした日共の反動的イデオロギーの粉砕は、反戦闘争の大衆的・戦闘的発展への死活をかけた闘いだ。

イラン人民、中国－アジア人民と連帯し、帝国主義の侵略戦争を内乱に転化する日本労働者階級の闘いの大爆発をかちとろう。反戦闘争の勝利に敵対するスターリン主義・日本共産党を打倒しよう。イラン侵略戦争阻止！　中国侵略戦争阻止！　6・14全国総決起闘争・反戦デモの爆発にむかって、巨万労働者階級の怒りの総決起をかちとろう。

「安保・沖縄」の核心は何か―帝国主義打倒

今日の戦争の最大の原因は、圧倒的な軍事力・経済力をもって第2次世界大戦後の世界を支配し続けてきたアメリカ帝国主義（米帝）の歴史的没落が決定的な段階まで行き着き、米帝がこの没落の危機からの脱出をかけて、中国スターリン主義の体制転覆を狙う侵略戦争―世界戦争を開始しているということにある。この歴史的踏み切りが、ウクライナ、パレスチナ、イラン・中東での戦争を激化・拡大させている。

米帝こそ巨悪であり、帝国主義が戦争の元凶である。米帝の中国侵略戦争は、日本帝国主義（日帝）を全面動員し、日本全土の「戦場化」を前提にしなければ遂行できない。日帝・高市は主体的に参戦することを決断している。日本での中国侵略戦争阻止闘争、帝国主義打倒の反戦闘争の爆発が歴史を決する。

この反戦闘争の最大の内実をなすのが「安保・沖縄闘争」だ。「安保」と「沖縄」を核心的につかみ、日米安保同盟と沖縄の軍事要塞化を全人民的怒りの対象へと押し上げよう。

日米安保の最大実体が沖縄

沖縄県には現在も31の米軍専用施設があり、その総面積は沖縄本島の約15%を占める。日本の総面積の0.6%しかない沖縄に、在日米軍施設の70.6%が集中している。この沖縄の現実こそが日米安保体制の最大の実体である。

1972年まで米軍統治下にあった沖縄は、米帝のベトナム侵略戦争（1964～73年）で「アジア最大の米軍兵站・補給・整備・出撃拠点」としてフル回転した。B52戦略爆撃機がグアムから嘉手納に移駐し、くり返しベトナムに出撃した。在沖海兵隊は地上戦の主力部隊となり、延べ5万人が派遣された。損傷した戦車や装甲車、火砲、航空機などが次々と持ち込まれ、修理されて再び戦地に送られた。

米帝は6万人の戦死者を出してベトナム戦争に敗北するが（総死者数は300～500万人）、沖縄と日米安保なしには10年以上もの侵略戦争を続けることができなかった。

現在のイラン侵略戦争においても、沖縄と日米安保は“在日米軍基地なしではイラン侵略戦争は成立しない”というレベルで深く関与している。

横須賀（神奈川県）の米イージス艦「ミリウス」と「ジョン・フィン」がアラビア海に派遣され、“最初の一撃”で巡航ミサイル（射程1600km）を発射、イラン南部のミナブの小学校に着弾させた可能性が高いと言われている（170名以上を殺害）。

沖縄のキャンプ・ハンセンの第31海兵遠征部隊2500人が、佐世保基地（長崎県）に所属する強襲揚陸艦「トリポリ」と輸送揚陸艦「ニューオーリンズ」に乗船して中東に派遣された。上陸作戦・地上戦の主力を担う。

嘉手納基地（沖縄県）の第18航空団が、空中給油機などでイラン攻撃に参加している。岩国基地（山口県）の海兵隊航空部隊（F35B等）がローテーション派遣されている。横田基地（東京都）は、在日米軍司令部として作戦全体の統合調整を担っている。

米軍の海外拠点トップは日本

米軍は海外112の国と地域に694の基地・施設を置いている（表を参照。ペンタゴンの報告をもとに集計）。こんな超大国は他にない。ロシアは海外軍事拠点は約50（旧ソ連圏諸国とシリア）、中国は実質2カ所、イギリスやフランスでさえも数ヵ所ずつだ。米軍の規模は桁が違う。

表を見てほしい。米軍の海外最大拠点は日本だ。基地施設数、駐留人数ともにトップ。しかも海兵隊の海外最大拠点が沖縄・岩国にあり、フルスペック部隊（単独で戦争を遂行できる戦闘部隊セット）が唯一常駐している。日本は事実上の参戦国だ。

世界の米軍基地・施設の状況（2026年3月

	国	基地	小拠点	合計	駐留人
1	日本	86	1	87	52,9
2	ドイツ	78	1	79	33,9
3	韓国	59	1	60	26,4
4	グアム	32	1	33	6,4
5	イタリア	29	1	30	12,3
6	プエルトリコ	24	1	25	1,5
7	英国	16	1	17	9,3
8	バーレーン	8	4	12	9,0
9	シリア	9	3	12	9
10	ベルギー	9	2	11	1,4
11	パナマ	0	11	11	
12	クウェート	10	0	10	13,5
13	ポルトガル	9	1	10	9
14	サウジアラビア	1	9	10	3,0
15	トルコ	8	2	10	1,7
：					
21	イラク	8	0	8	2,5
：					
25	フィリピン	0	8	8	4,0
26	オーストラリア	4	3	7	4
：					
30	カタール	7	0	7	11,0
：					
合計				694	221,6

「日本は共産主義の防波堤」

日米安保同盟とは何か。第一に、アジアにおける民族解放闘争の圧殺とアジア支配体制を構築するための“反共軍事同盟”として誕生した。

米帝は1945年、アジア・太平洋支配をかけた日帝との戦争に勝利し、日本をGHQ＝米軍の占領下に置いた。戦後世界体制の構築に進んだ米帝は、一方で「ドイツ東西分割」と「東欧の緩衝国化」を条件にソ連の協力を取り付けて西欧を戦後革命の波から防衛し、NATO（49年）を形成して帝国主義世界支配体制の一角を構築していった。

他方アジアでは、同時期に反帝国主義の民族解放闘争が爆発していった。ベトナムでの第一次インドチャイ

倒の反戦闘争

ナ戦争（46年～）、中国革命（49年）を先頭に闘いは朝鮮・アジア全域に拡大し、帝国主義は植民地支配体制の崩壊に直面していた。この危機を認識した米帝はアジア政策の転換を図り、軍事での全面支配に乗り出し、その柱に日本の軍事的兵站的役割を求めた。49年5月、米国家安全保障会議（NSC）は沖縄の長期保持と基地拡張を決定、マッカーサーは「日本は共産主義を阻止する防波堤」と演説した。

50年6月に朝鮮戦争が勃発し、米帝は日本を出撃・補給基地と位置づけ、沖縄で軍用地接収と基地建設を加速させた。さらに米豪、米比、米韓、米台などの相互防衛条約やSEATO（東南アジア条約機構）などを締結し、アジア太平洋に軍事同盟網を張り巡らせた。その結び目にある沖縄を「太平洋の要石（キーストーン）」と呼んだ。

日米安保は日帝の「生命線」

第二に、戦後日帝の延命策・世界政策として、これ以外にないものとしての日米安保条約の締結（51年9月。52年4月28日に発効）であった。

敗戦後の日本の支配層の意識や判断は、いかにして労働者人民の反乱を抑え、資本家的私有財産制度を維持するかに集中していた。「戦後革命」と総称される労働者人民の怒涛のような決起に対して、日帝を支えてその延命を保障した最後の力こそ米帝と占領軍であった。日帝は戦後革命の圧殺と引き換えに労働者人民への大胆な譲歩と妥協を行い（9条を柱とする新憲法制定と議会制民主主義への移行）、それと一体で日米安保同盟を日帝の再建のために必要不可欠な積極的政策として採用した。

第三に、60年安保改定を日帝は、日米侵略戦争同盟への強化として積極的に推し進めた。

54年ジュネーブ協定によるアジア危機の「解決」の中で、57年6月に岸首相が訪米しアイゼンハワー大統領と会談、60年安保改定に合意した。その内容は、暫定的な条約を「双務的」「対等的」に改定し、両政府間に安保の運用を協議する委員会を設置することや、自衛隊（54年発足）を整備していくことが確認された。

これに対する60年安保闘争は、戦後日本最大級のデモ（ピーク時33万人）となって爆発したが、学生人民の実力決起を統制する既成左翼政党の裏切りと革命的左翼の未成熟によって敗北に終わり、日米安保同盟を粉砕するためには日帝打倒の革命戦略・路線を持つ革命党組織が必要と総括された。

「安保粉砕・日帝打倒」掲げて

第四に、安保改定10年後の「自動延長」を許さない70年安保・沖縄闘争が爆発したことである。日米安保を米国への「従属」ととらえるのではなく、日本が帝国主義として延命する「唯一不可避の形態」であり、日帝にとっての「生命線」であり日米帝間の最大の矛盾でもあるととらえた。そして、安保粉砕の要求が日帝の存続に直撃する闘いであるという認識が広がり、日本革命に向かうスローガンとして初めて大衆的に「安保粉砕・日帝打倒」が掲げられた。

さらに、「安保問題＝沖縄問題」であることが明確になり、「沖縄奪還（＝本土復帰・基地撤去、永久核基地化阻止）、安保粉砕・日帝打倒」のスローガンに発展した。沖縄人民の「基地の島」への怒り―「本土復帰」を求める闘いに追い詰められた日帝は、ペテン的な「返還」政策を展開した。そのような中で、本土人民が「沖縄問題」を自らの課題として受け止めてこなかったことの自己批判をも踏まえての根底的な実力決起となっていった（さらには「闘うアジア人民と連帯し、日帝のアジア侵略を内乱へ」というスローガンも打ち出されていった）。

こうして70年安保・沖縄決戦は、米日帝国主義を打倒する「革命の現実性」を照らし出す闘いとなった。

「安保・沖縄」を内乱的闘いに

それ以降の日米安保をめぐる動きは、①78年日米安保ガイドライン締結、②91年「湾岸戦争」―92年カンボジアPKO派兵、③94年「朝鮮危機」―96年日米安保共同宣言―97年新安保ガイドライン締結―99年関連法成立、④95年米兵少女暴行事件と沖縄10万人集会―96年「普天間返還―辺野古新基地」SACO合意、⑤01年～アフガン・イラク派兵、⑥03～04年「有事関連法」成立、⑦14年「集団的自衛権」行使容認―15年戦争法成立、⑧22年「安保3文書」、⑨24年の日米安保「アップグレード」と日米共同作戦計画、⑩25年「日米統合作戦司令部」発足、⑪26年「安保3文書」再改定へ進む。

中国侵略戦争阻止闘争を、安保と沖縄をめぐる内乱的闘いへと発展させる必要がある。国際帝国主義の最弱の環は日帝である。その日帝の最大の破綻点は、戦後憲法下の労働者支配の危機であり、日米安保同盟関係の矛盾と危機にある。その矛盾を徹底的に突く沖縄現地の闘い、沖縄と連帯する全国での反戦反基地闘争を爆発させよう。学生・青年を先頭に5月沖縄に大結集しよう！（川添）

イラン侵略戦争の出撃拠点に怒りのデモ！

4・4横須賀

4月4日、大行進神奈川の呼びかけのもと、横須賀中央駅前での集会と米海軍横須賀基地に進撃するスクラムデモを150人の結集で闘った。アメリカ帝国主義によるイラン侵略戦争の直接の出撃拠点に対して、怒りの反基地闘争をたたきつけた。

横須賀基地から出撃したイージス艦（ミサイル駆逐艦）「ミリアス」と「ジョン・フィン」が、巡航ミサイル「トマホーク」でイラン爆撃を強行した。残虐極まる女子小学校への爆撃、児童ら175人の虐殺に手を染めた可能性も報じられている。

これに続き、米海軍佐世保基地所属の強襲揚陸艦「トリポリ」、沖縄のキャンプ・ハンセンの米海兵隊第31海兵遠征部隊も派遣された。中国侵略戦争での南西諸島の制圧作戦の訓練を繰り返してきた地上作戦部隊であり、直前の3月初めには陸自・米海兵隊の離島奪還訓練「アイアン・フィスト」で即応態勢を確立した上で派兵された。

日本がイラン侵略戦争の最大の出撃拠点になっている。日米安保と在日米軍基地がイラン人民虐殺の直接的元凶であり、その中心が沖縄と横須賀基だ。何よりも米海軍横須賀基地は中国侵略戦争の司令部であり、米第7艦隊－米空母打撃群こそ最大の主力である。

さらに日米首脳会談で、イラン侵略戦争の現実を前にして「世界に平和と繁栄をもたらせるのはドナルドだけだ」とトランプを称賛した高市は、中東・ホルムズ海峡への自衛隊艦船の派遣＝参戦にも踏み込もうとしている。横須賀は海上自衛隊の司令部でもあり、海自派兵阻止の決戦場でもある。

大行進神奈川は、4・4闘争に続き、米海軍横須賀基地に迫る連続闘争に立つ。侵略出撃拠点を実力で粉砕する闘いを巻き起こそう。

3・22朝霞

3月22日には、陸上自衛隊の中枢司令部である朝霞駐屯地へのデモと抗議闘争を、大行進埼玉・東京の共催で120人の結集で闘った。朝霞は陸上総隊司令部であり、陸自の全方面隊を指揮するとともに、「日本版海兵隊」＝水陸機動団や、空挺団、ヘリコプター団を直轄部隊として持つ。米海兵隊とともに沖縄・南西諸島への上陸作戦・軍事拠点化で対中国の戦端を開き、中国本土への全面的な侵略戦争に突っ込んでいくための作戦構想「EABO」－日米共同作戦を担うのがこの部隊だ。中国侵略戦争司令部・朝霞駐屯地への反基地闘争をさらに闘おう。

長射程ミサイル配備弾劾！ 健軍・富士で闘う

3月31日、健軍駐屯地（熊本県）、富士駐屯地（静岡県）に長射程ミサイルが配備された。中国本土を射程に入れたミサイルを、ついに日本が公然と保有するという歴史的事態だ。「専守防衛」の建前など完全に投げ捨て、侵略国家として登場したのである。両駐屯地に対して同日、大行進九州、大行進しずおかが呼びかけ、怒りの抗議闘争が闘われた。

健軍には「25式地対艦ミサイル」、富士には「25式高速滑空弾」（さらに射程2千キロへの「性能向上」を計画）が配備された。さらに27年度にかけて、えびの駐屯地（宮崎県、高速滑空弾）、百里基地（茨城県、航空機発射型）、横須賀基地（艦船発射型）などへの配備計画が公表されている。1千キロの航続距離で攻撃できる長距離無人兵器の導入も検討されている。3月末には海自イージス艦「ちょうかい」への巡航ミサイル「トマホーク」搭載も完了した（今後、海自の全イージス艦に搭載）。米国で訓練し9月から運用開始とされる。日本帝国主義・自衛隊は完全に中国侵略戦争態勢に入った。全国で反基地闘争を闘おう。

軍事空港・強制収用許すな！「第2の開港」粉砕を宣言

3・29三里塚－芝山現地闘争

右翼街宣車の妨害と喧騒を一蹴し、3・29芝山現地闘争に参加しました。

集会は木内敦子さんの司会で、萩原富夫さんが主催者挨拶。動労千葉に続き、「市東さんの南台農地を守ろう」と題して、市東孝雄さん、弁護団、農地取り上げに反対する会、農民会議の発言が続きました。

圧巻は市東さんの発言です。「天神峰農地の強制執行から3年経つがフェンスの中は当時のまま、ただ屈服を迫るために強行したに過ぎない」と怒りこめて断罪し、南台農地を守る闘いに不動の決意を表明し、動労千葉、沖縄、福島との連帯を訴えました。宮本麻子さんのカンパアピールの後、「第2の開港」粉砕の戦闘宣言を発し、芝山町内一周のデモに出発しました。

「第2の開港」攻撃は、中国侵略戦争のための攻撃です。イラン侵略戦争の激化の中で、NAAは土地取り上げの新たな強制収用の検討を国に要請しました。絶対に許すことはできません。「裁判には勝つが、判決では負ける」と反対同盟の故北原紘治事務局長は司法権力＝国家暴力の本質を看破しましたが、市東さん農地強奪の農地法裁判はまさにそれです。

しかし反対同盟の闘いは決定的です。60年に及ぶ国家の暴虐非道に一歩も引かずに闘いぬく市東さんと反対同盟のみなぎる決意。空港周辺住民の闘いも始っています。反戦の砦＝三里塚闘争が北総台地にある限り、階級情勢を一変させて勝利できると確信しました。（**大行進杉並・松尾博行**）

「反戦声明」を掲げて動労千葉が春闘ストに決起

動労千葉は3月14日、イラン侵略戦争を弾劾し、対中国の侵略戦争・世界戦争阻止、高市政権打倒の闘いを訴える「反戦声明」を発して、26反戦春闘勝利・3月ダイ改阻止のストライキにたちあがりました。第2波闘争は久留里線・久留里～上総亀山間の廃線化に対して、地域の仲間とともに立ち上がった3・16君津集会と君津市役所に向けてのデモ行進です。さらに4月1日には第3波闘争として検査修繕業務（機能保全業務）の外注化、人事賃金制度の抜本的な改悪に対して、再びストにたちあがりました。

3月14日はJR貨物・旧千葉機関区前で、4月1日にはJR東・京葉車両センター前、CTS本社前で組合員が「グループ会社に責任を押し付けて、JRは鉄道を捨てるというなど、

許せるはずがない」「こんな状況では安全は守れない」「何としても大幅賃上げを」と怒りの声をあげました。

動労千葉のストライキはイラン侵略戦争に対する、日本の労働者を代表する怒りの反撃です。そして、JRによる鉄道労働者の誇りを踏みにじり、労働者の権利も鉄道の安全も破壊する攻撃、JRとCTSの天下り幹部が結託し、現場に矛盾と負担を押し付け、超低賃金を強制することへの怒りの闘いです。動労千葉とともに街頭、職場から闘いにたちあがろう。（**国鉄闘争全国運動事務局・片峯潤一**）

内外情勢（3月中旬～4月上旬）

▼イラン最高指導者にモジタバ師（8日）
▼米韓合同軍事演習フリーダムシールド始まる。19日まで（9日）
▼入管難民法改定案が閣議決定（10日）
▼5日からの中国全人代閉会、習近平体制の危機深まる（12日）
▼内倉自衛隊統幕長が「ミサイル配備は不安より抑止力効果が大」（13日）
▼米がイラン・カーグ島を爆撃（13日）
▼国が小笠原村で南鳥島の原発廃棄物最終処分場文献調査へ住民説明会（14日）
▼沖縄辺野古沖で2人死亡事故（16日）
▼外為法改正案が閣議決定（17日）
▼米トランプの訪中延期発表（17日）。後に訪中は5月14－15日と発表（25日）
▼経済安保推進法改正案が上程（19日）
▼英仏独伊蘭と日本の6カ国がイランを非難する共同声明（19日）
▼トランプ・高市の日米首脳会談（19日）
▼米トランプが発電所攻撃予告、イランにホルムズ海峡封鎖解除を要求（21日）
▼東京の中国大使館に陸自幹部自衛官が侵入し、駐日大使襲撃を狙った（24日）
▼▼米強襲揚陸艦トリポリと在沖・第31海兵遠征部隊3500人が中東着（27日）
▼海自がイージス艦ちょうかいへのトマホーク搭載と乗員訓練終了発表（27日）
▼全米反トランプデモ800万人（28日）
▼26年度暫定予算が可決・成立（30日）
▼陸自が健軍駐屯地、富士駐屯地に長射程ミサイルを配備（31日）
▼シェルター民間施設確保の基本方針を閣議決定（31日）
▼法務省が帰化条件厳格化、在留期間10年以上に引き上げ等を実施（1日）
▼防衛省・太平洋防衛構想室発足（1日）
▼国家情報会議設置法案審議入り（2日）
▼NAA藤井社長が成田空港滑走路新増設へ強制収用の検討を表明（2日）
▼イラン軍がイラン西南部で米軍F15E、ペルシャ湾でA10撃墜（3日）
▼米比合同軍事演習サラクニブ始まる。陸自420人が本格参加（6日）
▼米トランプ、イランに戦闘終結合意なければ一夜で壊滅と警告（6日）
▼26年度予算が可決・成立（7日）
▼改憲－高市反対の国会行動・ペンライトデモに3万人。全国140か所でも（8日）
▼米とイランが2週間の停戦合意（8日）
▼イスラエルがレバノン大規模攻撃（8日）

行動予定 Action Plan

■**狭山東京高裁包囲デモ** 4月17日（金）12時日比谷公園霞門→デモ、13時30分～高裁要請行動／部落解放東日本共闘会議・全国水平同盟杉並支部
■**大行進東京・沖縄反戦集会【渋谷】**4月18日（土）16時～渋谷勤労福祉会館・洋室1**【錦糸町】**4月18日（土）18時30分～すみだ産業会館（錦糸町マルイ9階）・第4会議室 **【杉並】**4月19日（日）18時30分～阿佐ヶ谷地域区民センター・第4－5集会室 **【池袋】**4月25日（土）18時30分～としま区民センター・会議室403 **【大井町】**4月26日（日）18時～大井町駅前イトーヨーカドー8F・品川区民ギャラリー **【国分寺】**4月26日（日）18時～cocobunji（ココブンジ）プラザ・セミナールーム
■**安保・沖縄討論集会** 4月18日（土）17時～ほしぞら公民館／大行進沖縄
■**埼玉星野文昭絵画展浦和** 4月18日（土）～20日（月）10時～19時さいたま市民活動サポートセンター多目的展示室／埼玉救援会、埼玉星野ネット
■**イラン侵略戦争ゆるすな！阿佐ヶ谷反戦デモ** 4月19日（日）16時～阿佐谷けやき公園、16時30分デモ出発／大行進東京
■**千葉反戦集会・デモ** 4月19日（日）13時～千葉市文化センター・セミナー室、集会後デモ行進／大行進千葉
■**横須賀基地抗議行動** 4月19日（日）14時～米海軍横須賀基地正門ゲート前／大行進神奈川
■**大行進関西・学生青年女性反戦討論集会【大阪】**4月22日（水）18時30分～阿倍野市民学習センター **【京都】**4月24日（金）18時30分～京都教育文化センター
■**呉反戦デモ** 4月25日（土）14時呉駅前、海自総監部へデモ＆申し入れ行動
■**相模原補給廠抗議行動** 4月25日（土）16時～補給廠西門／大行進神奈川
■**東京南部星野文昭絵画展** 4月25日（土）13時～19時、4月26日（日）10時～19時品川区民ギャラリー／実行委員会
■**JR西日本尼崎事故弾劾！集会＆デモ** 4月26日（日）13時～JR尼崎駅北口広場／動労西日本
■**4・26新宿反戦デモ** 4月26日（日）13時～新宿駅東口広場／大行進東京
■**名古屋反戦デモ** 4月26日（日）13時30分西柳公園集合／大行進東海
■**4・29「昭和100年記念式典」粉砕闘争** 4月29日（水・休）12時30分東京しごとセンター、13時30分～デモ／主催：改憲・戦争阻止！大行進、協賛：東京労組交流センター ■**ヒロシマ反戦デモ** 4月29日（水・休）14時原爆ドーム前集合／ヒロシマ大行動 ■**天神反戦デモ** 4月29日（水・休）12時天神警固公園集合、14時15分～アクロス福岡605で集会 ■**沖縄デー闘争** 4月29日（水・休）14時～県民広場でスタンディング、15時～国際通りデモ
■**5・1新宿・反戦メーデー2026** 5月1日（金）14時～新宿駅東口広場、15時～デモ／実行委員会 ■**関西反戦メーデー集会＆デモ** 5月1日（金）18時20分～扇町公園南西角／関西労組交流センター
■**空港拡張差し止め裁判** 5月12日（火）10時30分～千葉地裁
■**「復帰54年」5・15沖縄闘争** ●5月16日（土）◎国際通りデモ 16時県庁前 ◎5・15沖縄集会 18時30分～沖縄船員会館2Fホール ●5月17日（日）◎嘉手納基地抗議デモ 12時30分胡屋十字路 ◎勝連分屯地抗議闘争 15時陸自勝連分屯地正門前 ●5月18日（月）◎辺野古現地闘争 8時30分辺野古ゲート前 ◎那覇駐屯地抗議闘争 12時30分陸自那覇駐屯地正門前

闘争日誌

▼3月11日 反原発福島行動に420名
▼3月11日 杉並区議会で洞口区議がイラン侵略戦争阻止で岸本区長を追及
▼3月14日 動労千葉スト突入。千葉機関区抗議に70名、決起集会に120名
▼3月15日 海自掃海艇徳島寄港に抗議
▼3月16日 久留里・君津デモに70名
▼3月19日 大坂さん高裁包囲デモ
▼3月20日 イラン侵略弾劾・日米首脳会談粉砕の集会・渋谷デモに540名
▼3月20日 大行進沖縄が国際通りデモ
▼3月21日 動労連隊高崎がスト決行
▼3月21日 池袋で映画「在日」上映会
▼3月22日 朝霞駐屯地闘争に120名
▼3月22日 大行進東海が小牧反戦デモ
▼3月22日 神奈川で反戦春闘集会・デモ。千葉でも反戦春闘集会
▼3月28日 広島反戦デモ
▼3月29日 芝山現地闘争に400名
▼3月31日 大行進九州が健軍駐屯地闘争。大行進しずおかが富士駐屯地闘争
▼4月1日 動労千葉ストライキ、京葉車両センター・CTS本社前で抗議行動
▼4月2日 動労東京環境アクセス支部が反戦春闘行動、環境アクセス本社へデモ
▼4月4日 イラン出撃弾劾・横須賀闘争に150名。同日大阪で御堂筋反戦デモ
▼4月5日 在日イラン人よびかけの米大使館・首相官邸抗議行動に200名
▼4月6日 天皇福島訪問弾劾に30名超
▼4月9日 大行進東京国会闘争に90名
▼4月9日 星野大坂デモ申入れに55名

会計報告（26年3月1日～31日）

●収入	313,049
2.22集会カンパ	226,999
ニュース代	83,750
その他	2,300
●支出	232,899
闘争費	143,660
3.20闘争関連	71,130
4月沖縄集会関連	18,130
4.29ビラ代	50,000
派遣費その他	4,400
ニュース作成	70,000
事務局活動費	19,239
備品費	11,199
発送費	8,040
●11月末繰越金	774,168
●残高	854,318

「**改憲・戦争阻止！大行進**」運動は、大規模な反戦デモをめざして全国で取り組んでいます。
各地にも「大行進」実行委員会がつくられています。
【呼びかけ】高山俊吉（弁護士）／森川文人（弁護士、憲法と人権の日弁連をめざす会）
野本三吉（ノンフィクション作家）／洞口朋子（杉並区議会議員）
国鉄千葉動力車労働組合
ブログ https://stop-kaiken.blog.jp/
ツイッター（X） https://x.com/grandmarch2020

ブログ　ツイッター

カンパのお願い

《振込先》
きらぼし銀行
東新宿支店（071）
普通 5009268
「弁護士 森川文人」